

教育課程の改訂に伴う新しい家庭科教育のあり方についての一考察

A Reflection on How Homemaking Should be Taught with a New Curriculum

大 矢 愛 美
Manami Ohya

Abstract

The research on girl students' views on 'Homemaking', 'Sewing practice', and "Co-educationalism of classes in homemaking' has shown the following:

- 1) What girl students are most interested in about homemaking is practical knowledge such as cooking. On the other hand, the theoretical fields such as family life or housing life planning, house management, and clothing habits planning is thought to be uninteresting because they seem to be of little use. In addition, what girl students and boy students to learn in homemaking is health care of the mother's body, nursing, and cooking practice. This reveals the girl students' request for cooperation between husband and wife in housekeeping and nursing.
- 2) Dresses made in sewing practice are not really worn, but girl students have a strong desire to make dresses for themselves. Moreover they have a great interest in coordinating and designing dresses. Most girl students have a sense of fulfillment after making dresses and they do not think sewing practice is out of date.
- 3) As to the co-educationalism of classes in homemaking, most girl students more or less accept it.

1. 結 言

新学習指導要領により高校教育の家庭科が男女共修になるにあたって、被服実習にどのような役割を課すかが、魅力ある家庭科教育にとって重要な事であると考えられる。元来、被服実習というのは、女子のみの作業というイメージが強いのに、有名なデザイナーは男性が多いというのは、矛盾していると思われる。最近では、家庭科教育において被服実習が時代遅れなものであると考えられがちである。手作りが見直され、学生が自分の作りたいものなら高度な作品も製作する能力を持てるような、被服実習を家庭科教育に導入出来たら、学生にとっても魅力ある家庭科になるのではないかと考えられる。

本研究の目的は、女子学生が高校の家庭科についてどう考えているか、また家庭科の分野の中で被服実習についてどう考えているか、そしてこれから始まる高校家庭科の男女共修をどのように捉えているかを、調査をもとに明らかにすることである。

2. 調査方法

調査は、平成3年8月下旬に、大分県立芸術短期大学に在学する満18歳から21歳までの女子学生125名を対象に行った。調査方法は、授業の始業または終了後に調査票を配付し、その場で記入してもらい回収した。有効回収数121票で、回収率は、96.8%であった。調査項目は高校の家庭一般について(7項目)、被服実習について(14項目)、高校家庭科の男女共修について(2項目)である。分析方法は、調査データを項目別に単純集計し、高校の家庭一般と家庭科の男女共修や被服実習のあり方について回答をもとに考察した。

調査項目は次の通りである。

高校の家庭科と被服実習に関する調査

(1) 高校の家庭一般についてお伺いします。

○以下の質問で該当する番号を下記の語群から選んで書いて下さい。

問1) 家庭科の授業で興味があった内容はどの分野ですか。

問2) また、興味がなかったのはどの分野ですか。

問3) むずかしいと思った分野はどれですか。

問4) 実際に役立つと思う分野はどれですか。

問5) また、役立たないと思う分野はどれですか。

問6) 日常生活で行っている事柄なのでわざわざ学ぶ必要がないと感じた分野はどれですか。

問7) 男子にも学んでほしいと思う分野はどれですか。

<語群A>

- | | |
|----------------|--------|
| 1 家庭生活の設計・家族 | |
| 2 食生活の設計 | 3 調理実習 |
| 4 衣生活の設計 | 5 被服製作 |
| 6 住生活の設計・住居の管理 | |
| 7 母性の健康・乳幼児の保育 | |

(2) 次に被服実習についてお伺いします。

問1) 高校家庭科の被服実習で何を製作しましたか。下記の語群から選んで書いて下さい。

問2) 被服実習で製作した作品を着用したり、使用したりしましたか。該当する番号に○印をつけて下さい。

1 よく活用した。 2 まあまあ活用した。

3 あまり活用しなかった。 4 活用しなかった。

問3) 製作した作品の中で、よく活用したものを下記から選んで番号を書いて下さい。

問4) 被服実習で製作したいと思うものを下記から選んで下さい。

問5) また、製作したくないと思うものはどれですか。

(3) 最後に高校家庭科の男女共修についてお伺いします。

問1) 家庭科の男女共修についてどう思いますか。該当する番号に○印をつけて下さい。

- 1 大変価値があると思う 2 まあ価値があると思う
3 あまり価値がないと思う 4 まったく価値がないと思う

問2) 男子も家庭科を学ぶべきだと思いますか。

- 1 大変そう思う 2 まあそう思う
3 あまり思わない 4 まったく思わない

単純集計結果

(1) 高等学校の家庭一般について

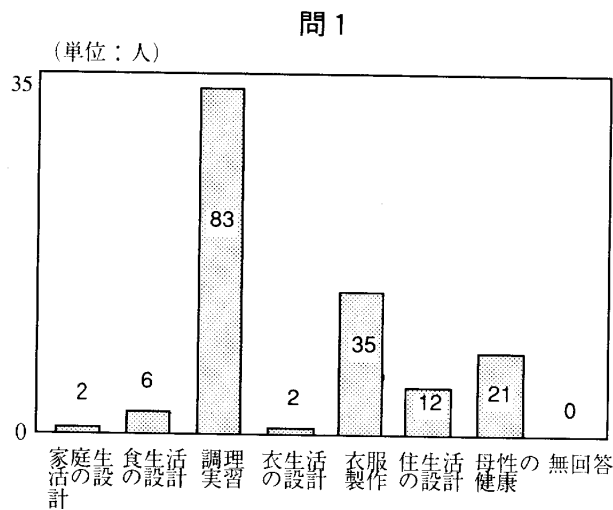


図1.家庭科の授業で興味あった分野

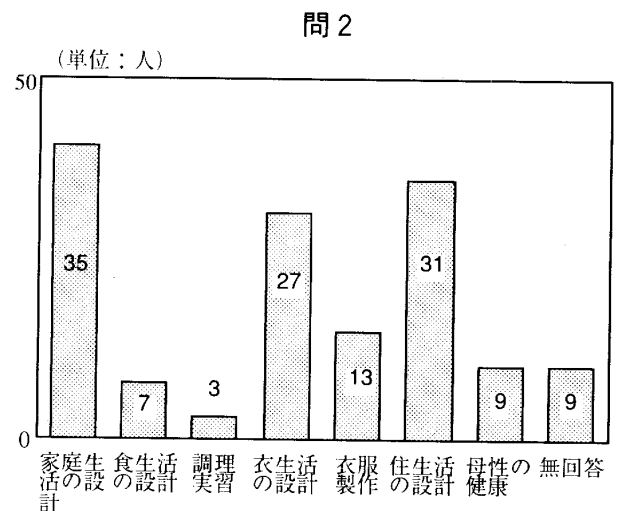


図2.興味がなかった分野

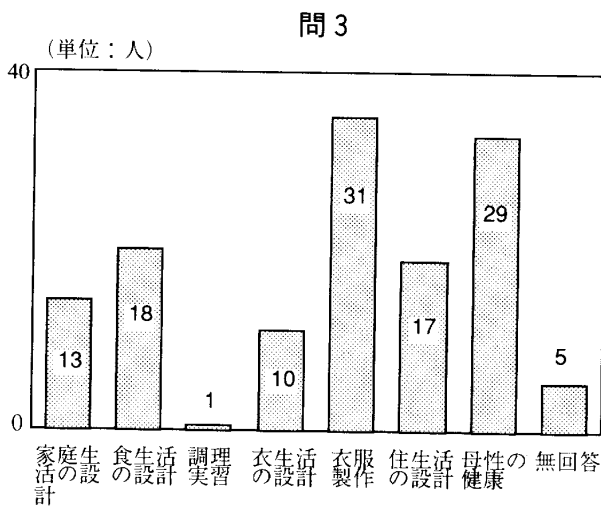


図3.難しいと思われる分野

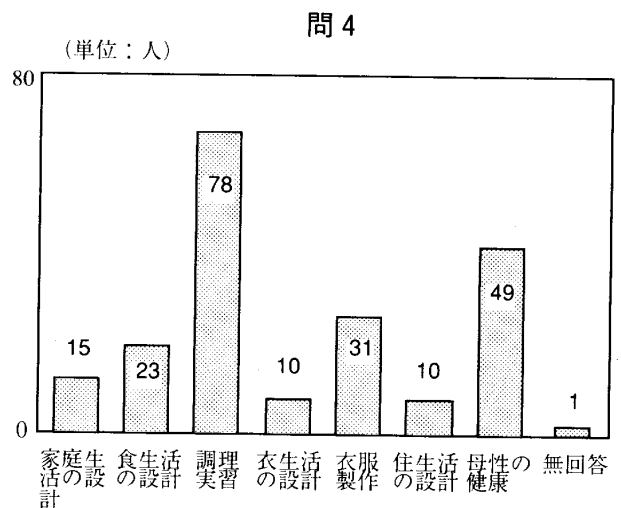


図4.実際に役立つと思う分野

教育課程の改訂に伴う新しい家庭科教育のあり方についての一考察

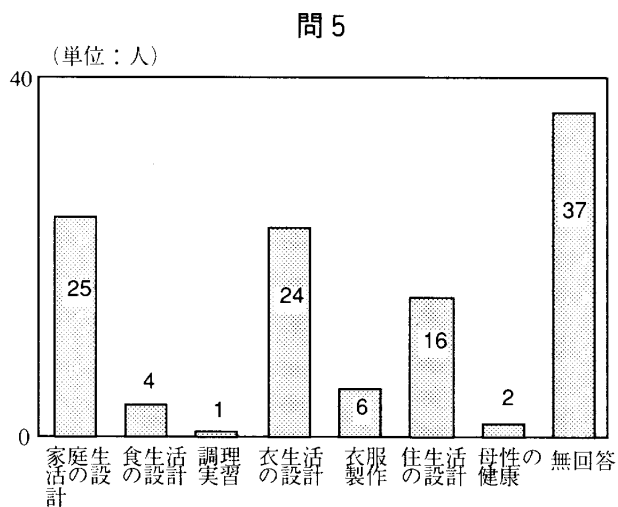


図 5. 役立たないと思う分野

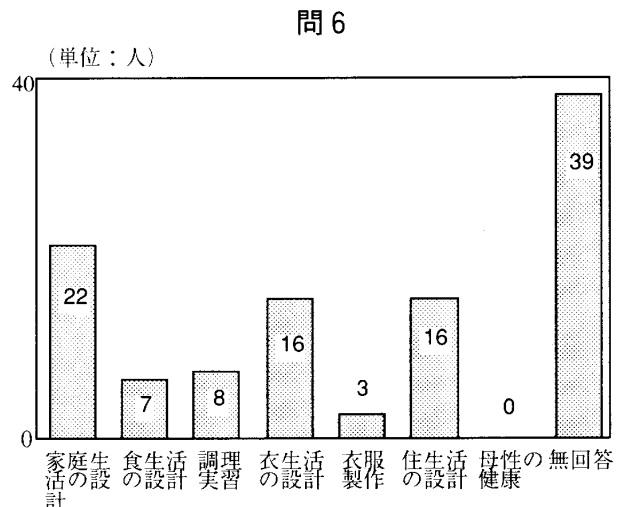


図 6. 日常生活で行なっている事柄なのでわざわざ学ぶ必要がないと感じる分野

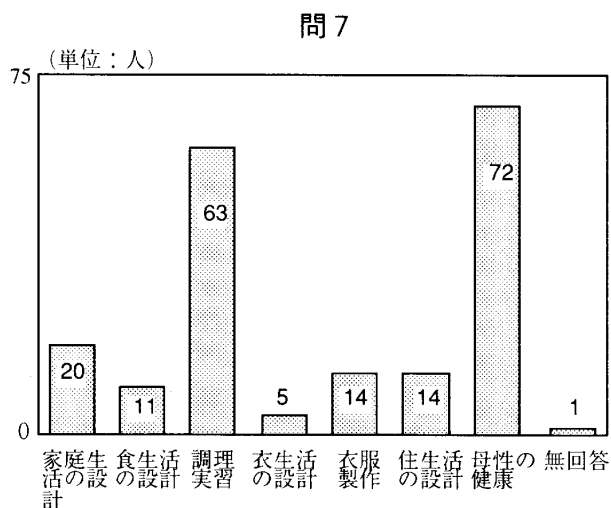


図 7. 男子生徒にも学んでほしいと思う分野

(2) 被服実習について

問 1

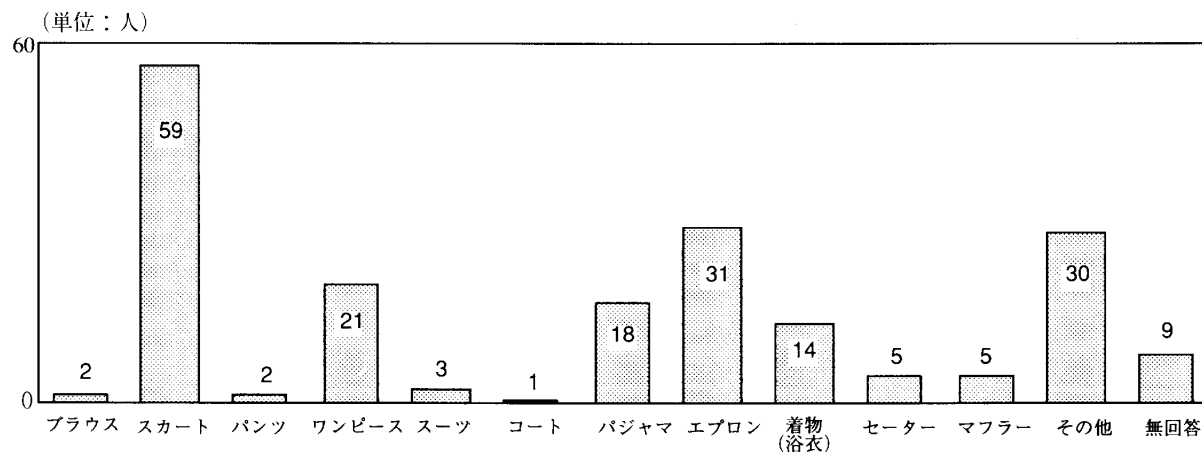


図 8. 高校家庭科の被服実習で製作した作品

問 2

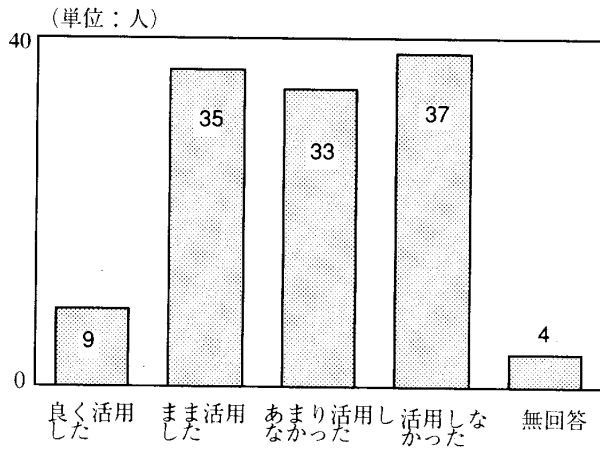


図9.被服実習で製作した作品を活用したかどうか

問 3

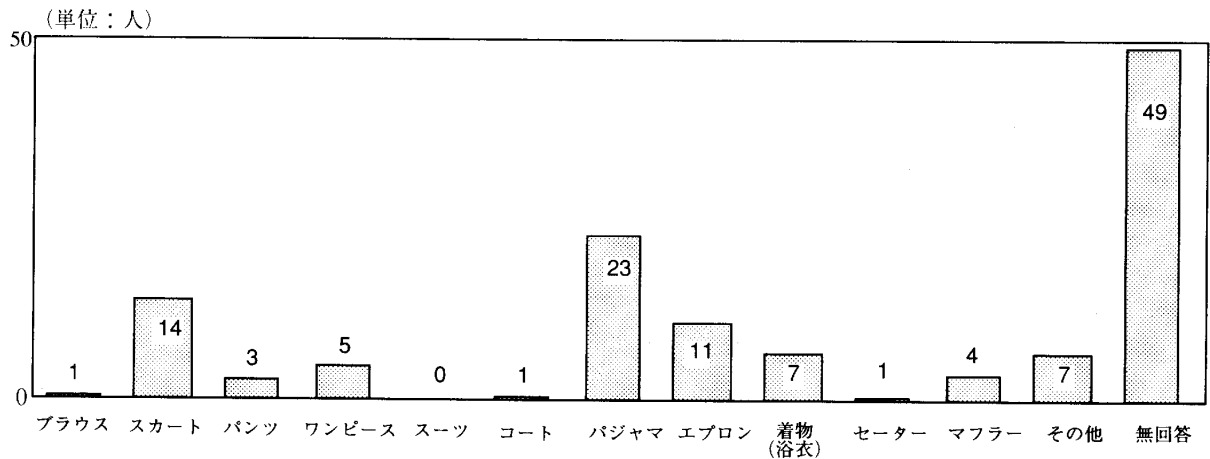


図10.製作した作品の中でよく活用した作品

問 4

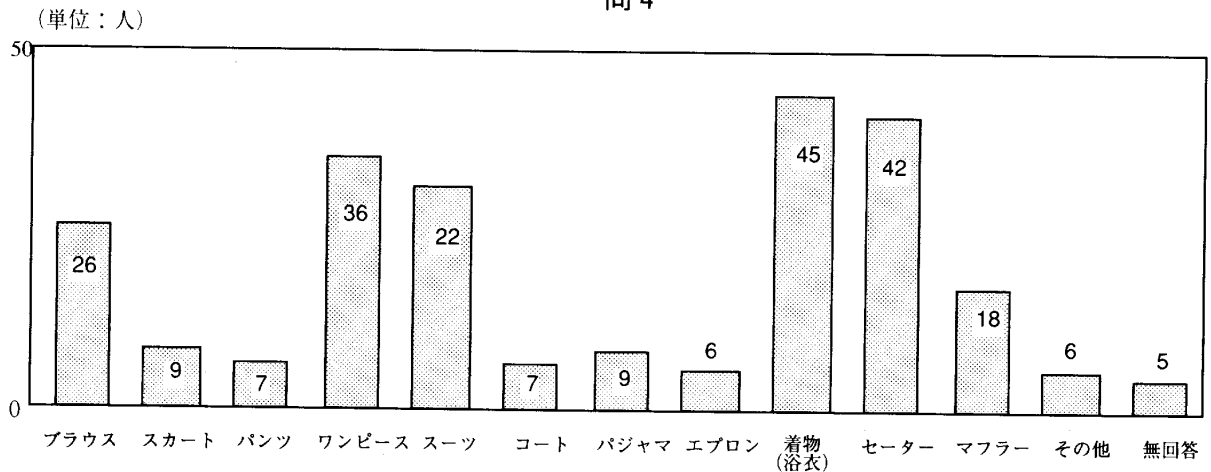


図11.被服実習で製作したいと思う作品

問5

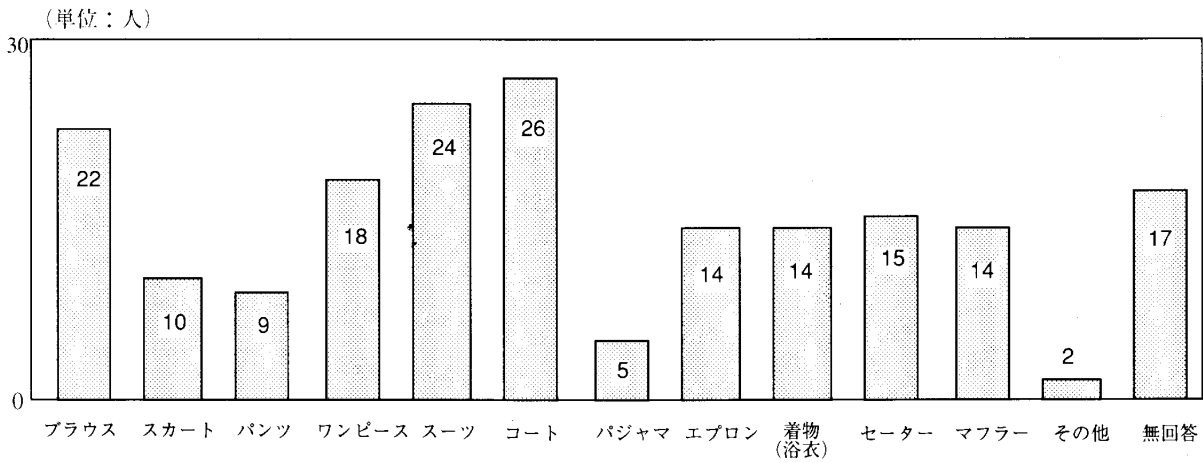


図12.製作したくないと思う作品

問6

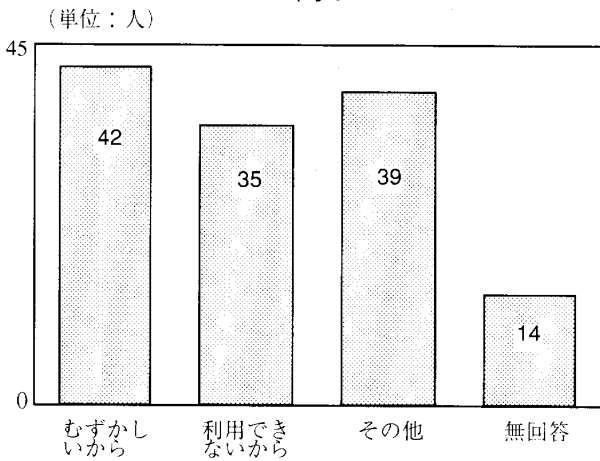


図13.その理由

問8

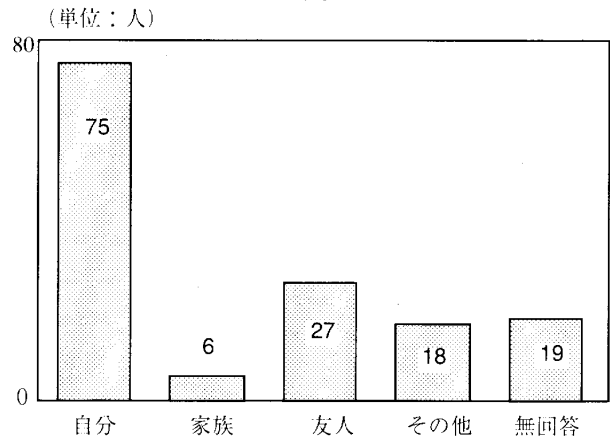


図16.何を参考にして製作したか

問7

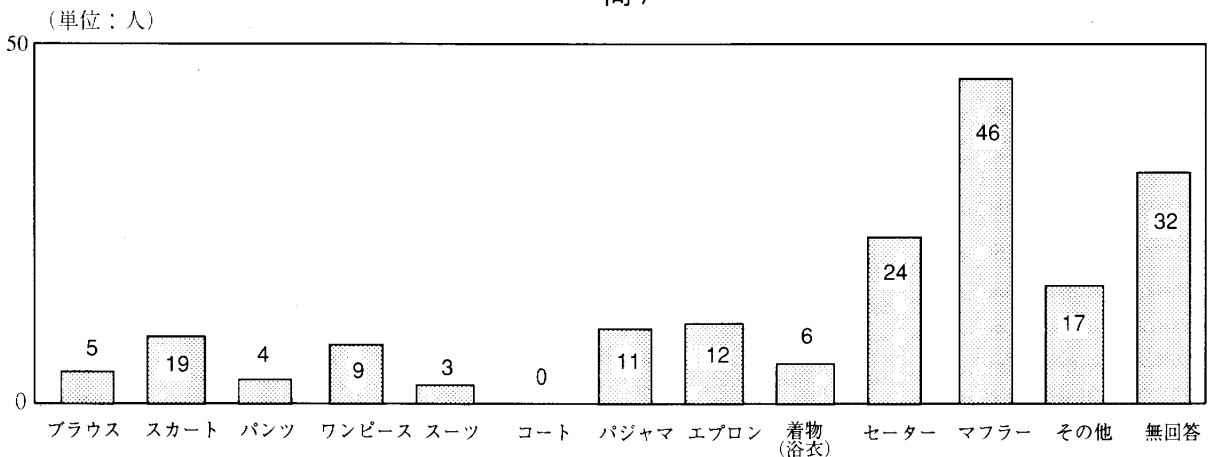


図14.家庭科の授業以外で自分で製作した作品

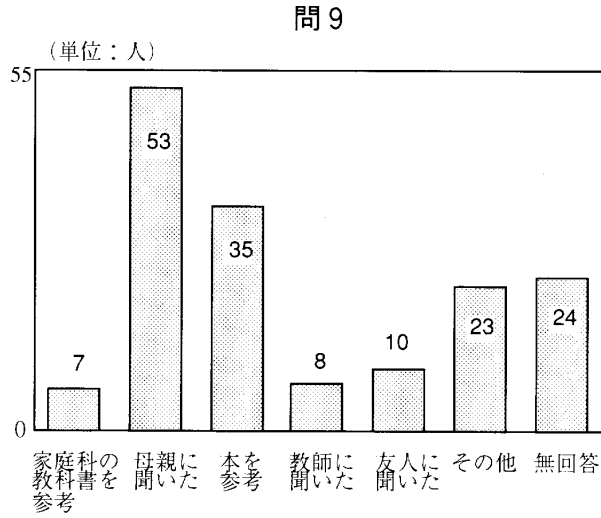


図16.何を参考にして製作したか

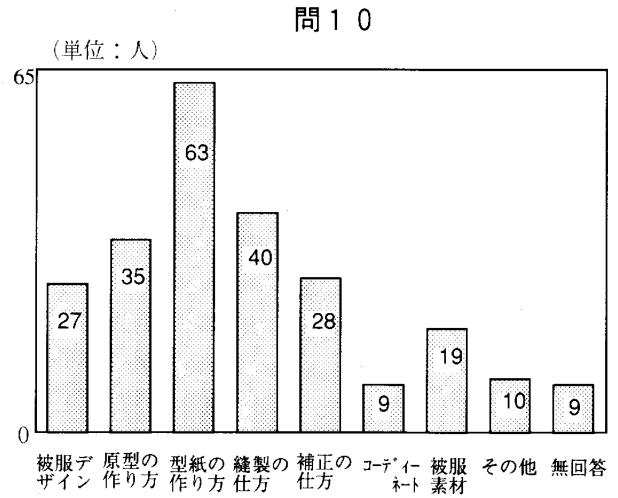


図17.被服実習で難しいと思う内容

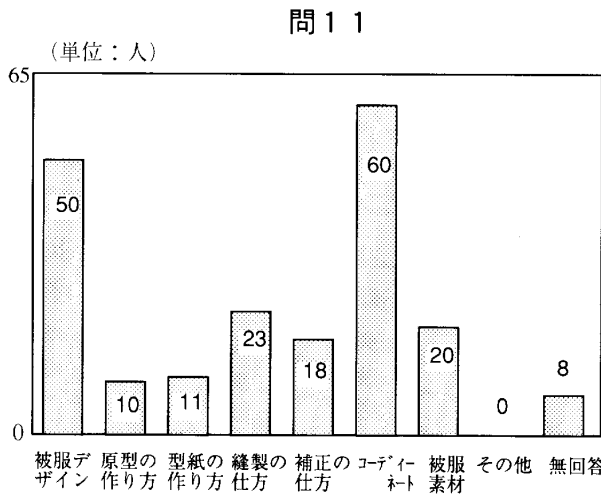


図18.被服実習で興味がある内容

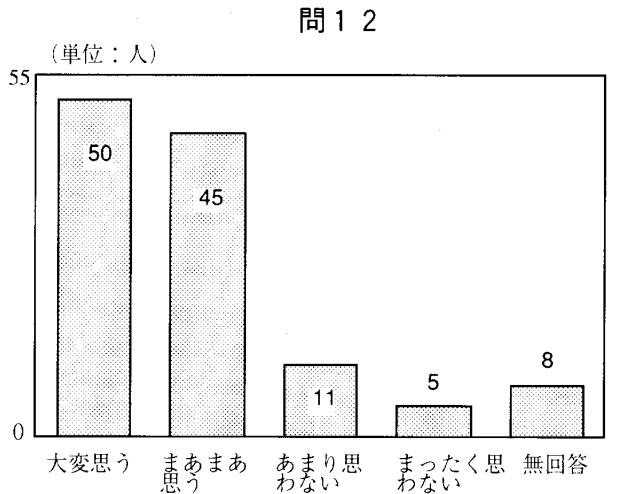


図19.完成した時の充実感

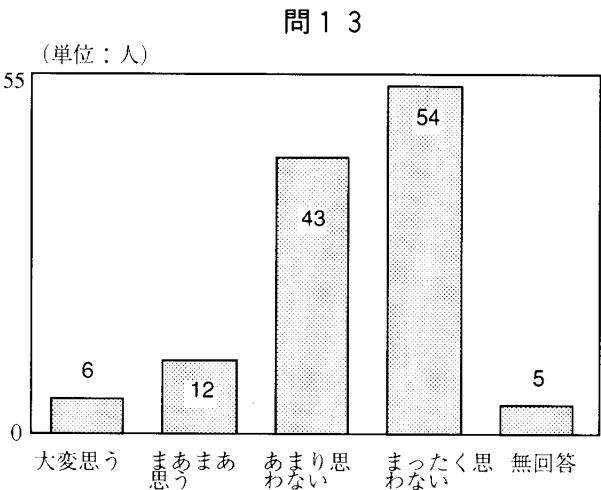


図20.被服実習は時代遅れであると思うかどうか

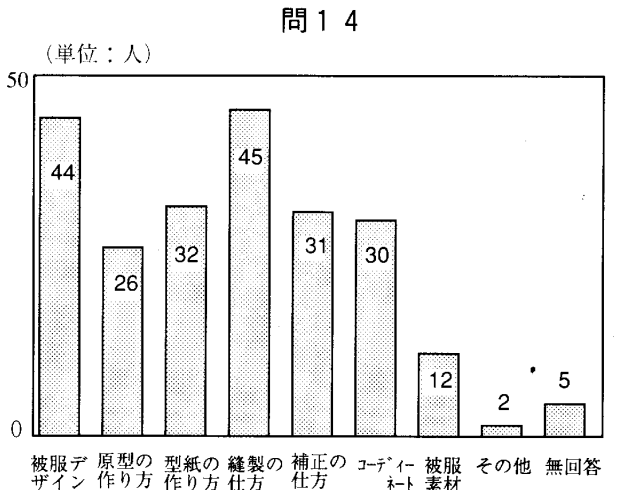


図21.被服実習で重点的に学びたいと思う内容

(3) 高校家庭科の男女共修について

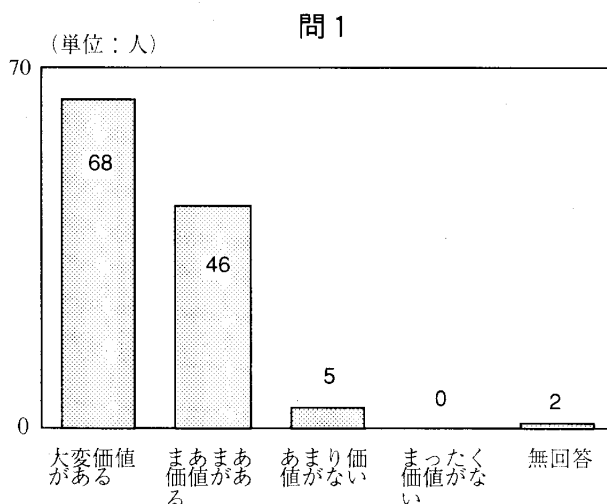


図21.家庭科の男女共修について

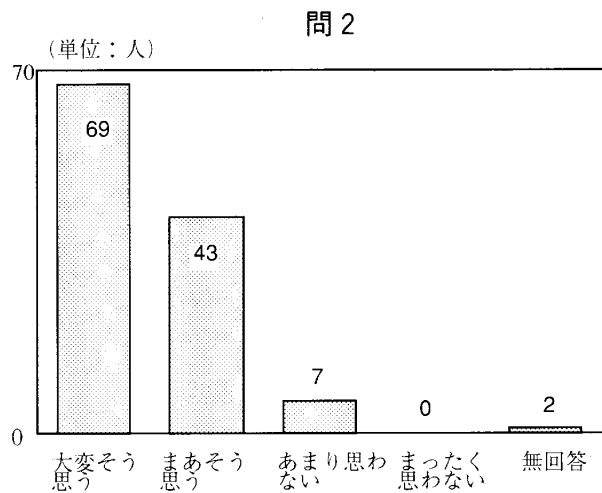


図22.男子生徒も家庭科を学ぶべきだと思うか

3. 結果および考察

(1) 高等学校の家庭一般について

単純集計結果から考察すると、問1の家庭科の授業で興味があった分野は、調理実習が83名と圧倒的に多い。家庭科の授業内容はどの分野でも生活に密着したものであるが、調理実習は特に身近に感じられ、その場で体験することができ、また実習した成果としてすぐ試食することができるという付録のような楽しみもあることから、学生の興味を引くと考えられる。逆に問2の興味がなかった分野は、家庭生活の設計・家族(35名)と、住生活の設計・住居の管理(31名)と、衣生活の設計(27名)と多少回答は分かれた。この分野の共通点としてはすべて“～の設計”というような漠然とした分野であること、とりわけ家庭生活に関連した内容であるためわざわざ学ぶ必要のない当り前の事だと錯覚しやすく、実習のように即体験できないという点も興味が半減させていると考えられる。問3の難しいと思う分野は、調理実習以外は、全体的にばらついた回答となったが、多いのは、被服製作(31名)と、母性の健康・乳幼児の保育(29名)である。被服製作は、自分自身で順序だって数えられる通りに製作していかなくてはならないので、必ず授業についていかなくてはできなくなってしまし、最近は既製服が普及していて、被服製作が家庭生活から遠ざかってきているためと考えられる。母性の健康・乳幼児の保育は、学生にとってまだまだ未知の分野であるので、難しいというよりもむしろわからない事柄であるためと思われる。問4の実際に役立つと思う分野では、調理実習が78名と断然多い。次に母性の健康が49名、被服製作が31名と続く。傾向として問1の興味がある分野と似ているので、役立つ分野に興味があるとも考えられる。逆に問5の役立たないと思う分野としては、家庭生活の設計・家族(25名)と、衣生活の設計(24名)で、これも問2の興味のない分野と傾向が似ている。また無回答が37名と多く、これは役立たない分野はないと考えた学生も多いと思われる。問6の日常生活で行っている事柄なのでわざわざ学ぶ必要がない

と感じた分野としては、全体的にばらついた結果となったが、家庭生活の設計・家族（22名）、衣生活の設計（16名）、住生活の設計・住居の管理（16名）が比較的多い。この問いも無回答が39名と多く、学ぶ必要がないとは考えていない学生が多いと思われる。また母性の健康・乳幼児の保育は0名と、学ぶ必要がないと考えた学生は誰もいないという結果となった。問7の男子生徒にも学んでほしいと思う分野では、母性の健康・乳幼児の保育（72名）、調理実習（63）が大変多く、女子学生は、将来の家庭生活上、夫にも家事、保育を分担してほしいという潜在意識が、この結果を引き出したとも思われる。

(2) 被服実習について

被服実習に関する設問では、問1の高校家庭科の被服実習で製作した作品は、スカート（59名）、エプロン（31）、ワンピース（21名）、パジャマ（18名）、着物（浴衣）（14名）で、スカートを製作している場合が一番多いが、学校によってそれぞれ異なった作品を製作している。使用している教科書にはあまり差がないのに、製作した作品がこのように様々であるのは少し意外であった。問2の被服実習で製作した作品を使用したかどうかについては、活用しなかったが37名、まあまあ活用したが35名、あまり活用しなかったが33名である。回答としてはほぼ同数程度に分かれているが、全体的にはあまり活用しなかったという答が多いと解釈できる。理由としては、問6のその他の意見にも出てくるものであるが、自分で製作したあまりうまくできていない作品を着用するのは、恥ずかしいとか、学校で製作する作品はデザインが古いとか、また既製品の方が良いなどが上げられる。問3の製作した作品の中でよく活用したものは全体的に意見が分かれたが、問2を反映して無回答が49名と多く、それ意外で多かったものは、パジャマ（23名）である。パジャマは家の中で着用する衣服なので、あまりうまくできていなくても、デザインが古くてもかまわないということであると思われる。問4の被服製作で製作したいと思う作品は、着物（浴衣）が45名、セーターが42名、ワンピースが36名と前問の間3と比較すると、製作したいと思う作品は、意外と高い数字を示している。現実には製作した作品は、あまり活用していなくても作りたいという意欲はあると考えられる。問5の製作したくないと思う作品は、全体的に意見が分かれたが、比較的多かったのは、コート（26名）、スーツ（24名）、ブラウス（22名）である。これは問6のその理由としてもあるように、難しい（42名）からと思われるのが要因であると考えられる。問7の家庭科の授業以外で自分で製作したものとしては、マフラーが46名と多く、少数ではあるが着物（浴衣）が6人もいたのは作りたいという意欲さえあれば、高度な作品もできるという事を証明していると思われる。問8の問7で製作した作品が自分自身のものであるか他の人のためのものであるかに関しては、自分が75人と圧倒的に多く、自発的に作った作品は、自分自身で活用するために製作しているということがわかる。問9の問7で製作する際に何を参考にしたかについては、本を参考が53名と多く、次に母親に聞いた（35名）が続く。家庭科の教科書を参考にした（7名）とか、教師に聞いた（8名）は、極僅かという結果になった。これは数字の上では家庭科の授業が役立っていないということになるが、家庭科の授業が基礎を教育するとか、より応用させるための入門編的な役割を果たせば、それなりに意味があると考えられる。問10の被服実習で難しいと思う内容では、型紙の作り方が63名と多く、次に縫製の仕方が40名と多い。中学校までは、与えられた型紙で製作するだけだったのが、高校に入ってから、型紙も本人が作ることとなり、これは難しいと感じるのは当然であるし、実際にも型紙を作るのは難しい。だからそれを乗り越えたら自由に型紙を作ることもできるようになり、興味も沸いてくると考えられる。問11の被服

実習で興味がある内容では、コーディネートの仕事（60名）と、被服デザインの仕方（50名）が多かった。これも問10の難しいと思う内容では、低い数字を示しており学生はあまり難しくないと考えているようである。また感覚的な分野に興味集中している。問12の完成した時充実感を感じるかどうかについては、大変そう思うが50名で、まあまあ思うが45名と大多数を占めている。これは興味があってもなくても、被服実習で作品が完成したときは、それなりに充実感を感じているといえる。問13の被服実習が時代遅れであると思うかどうかについては、思わないが54名で、あまり思わないが43名とこれも思わない方が大多数を占めた。これは問2の製作した作品を活用したかどうかの問いでは、全体的にはあまり活用しなかったという意見が多かったし、また問6のその他では、型が古いとかセンスが古いなどの意見もあったので、これは好ましい結果ではあるが多少意外に思われた。問14の被服実習で重点的に学びたい内容では、縫製の仕方（45）、被服デザインの仕方（44名）が多かった。これは自由にデザインができるようになり、縫製もできるようになりたいという考えのあらわれであると思われる。

(3) 高校家庭科の男女共修について

問1の家庭科の男女共修について、大変価値があると思うが68名、まあ価値があると思うが46名で、大半が価値があると考えている。問2の男子も家庭科を学ぶべきだと思うかどうかについては、大変そう思う（69名）、まあそう思う（43名）と問2も問1とほぼ同じ結果が得られた。女子学生からみると男子にも家庭科を学んでほしいという希望を持っていると思われる。本来教育は男女平等であるべきなので男女間に差別があるのは教育原理に反していると考えられる。特に現代に至っては、これまでの男子と女子の教育内容は本来異質な分野が存在すると固定観念は直すべきであるし、また現状に合った教育をすべきであると考えられる。

4. 要 約

女子学生が、高等学校の家庭一般、被服実習、高校家庭科の男女共学についてどのように考えているか調査した結果、次の様なことが明らかになった。

- (1) 高等学校の家庭一般に関して、女子学生が興味を持つのは、調理実習のようにすぐ体験できる分野で、また即役立つ内容であると考えている。逆に興味を持たれない分野は、家庭生活の設計・家族とか、住生活の設計・住居の管理とか、衣生活の設計というような漠然とした分野である。これらの分野はあまり役立たないと思われる。男子にも学んでほしいと思う分野は、母性の健康・乳幼児の保育や、調理実習で、男性にも家事や育児を分担してほしいという望みを持っていると考えられる。
- (2) 被服実習に関しては、被服実習で製作した作品はあまり活用されてはいないが、被服実習で製作したいという意欲はあるという結果が得られた。また内容的にはコーディネートの仕方とか被服デザインの仕方など感覚的な作業に興味を寄せられた。作品の完成時には、大半が充実感を感じていて、被服実習が時代遅れであるとは考えていないとの結果が得られた。
- (3) 高校家庭科の男女共修については、ほとんどの学生が、程度の差はあっても、価値があると考えている。

参考文献

- 1) 村田泰彦、一番ヶ瀬康子、田結庄順子、福原美江、共学家庭科の理論、光生館（1986）
- 2) 岡村喜美、武井洋子、田部井恵美子、家庭科教育法、学文社（1982）
- 3) 田中宏子、久保博子、植松奈美、早川和代、平手早苗、貴田康乃、家政学研究、奈良女子大学家政学会、71（1989）
- 4) 秋田県高等学校長協会家庭部会、男女必修家庭科教育に向けて—新学習指導要領への取り組み—（1991）
- 5) 東海四県高等学校長連絡協議会、家庭科の男女必修について—「家庭一般」男女共修の試行：三重県立津商業高等学校の場合—（1990）
- 6) 全国高等学校長協会家庭部会、家庭科に関する学科における施設・設備について—家政科、被服科、食物科、保育科—（1991）